

中南米等世界のリンゴ産業の概要

[FreshFruitPortal](#) 2024年11月6日

アイコンサルティング (iQonsulting) 社の事業マネージャーであるカミラ・ミランダ氏は、チリで開催されたフルーツトレード2024で、中南米のリンゴ市場についての詳細な分析について講演した。同氏は、様々な国のリンゴ市場の現状について論じ、この果実の世界的な重要性を強調した。(以下「」は同氏の発言)

同氏は、世界中で480万ヘクタールのリンゴ栽培面積があり、そのうち97%が北半球に存在し、南半球はわずか3%であると説明した。中国はリンゴの最大の生産国の1つであるが、国内の消費量が多いため、輸出では目立っていない。

「チリには2万9千ヘクタールの栽培面積があるが、これは面積的には減少している。ただし、絶えず品種が変動している。」

同氏は、リンゴは手頃な価格で広く入手でき、食べやすく、多くの栄養上の利点があるため、世界的に非常に人気があると指摘した。

輸出 同氏は、イタリアが世界最大のリンゴ輸出国であり、大規模な国内市場を持ち、輸出は近隣諸国ばかりか中南米諸国の一部にまで及んでいることを強調した。イタリアは現在、ゴールドデリシャスを中心である。「2023年のシーズンは、天候の問題により2.9%縮小したが、イタリアは全世界で輸出されるリンゴの中で11%のシェアを占めている。」

ポーランドは第2位の輸出国であるが、「従来からのリンゴ品種に特化しており、新しい品種の導入にはそれほど力を入れていない」。

中国は、世界最大のリンゴ生産国であるにもかかわらず、輸出国としては第3位である。

同氏は、チリを世界のリンゴ輸出で7位にランク付けた。「チリは世界一の輸出国ではないが、ガラとピンクレディーの2つの品種の最大の輸出国であり、グラニースミスでは第3位である。」

チリの輸出はガラ品種が中心で、ふじとピンクレディーがこれに次ぎ、ハニークリスプとゴールド系品種もシーズンを通じて輸出されている。

市場 価格について論じる中で同氏は、北米市場では2023年に、1.60ドル/kgに達する有利な価格が見られたと指摘した。「それは価格の面で厳しい現状とは正反対である。昨シーズンは良い価格であった。」

同氏は、米国は今年、リンゴの収穫量が普通ではなかったと指摘した。「米国からの供給が大量にあり、それが価格を押し下げた。」

ヨーロッパでの価格は約1.08ドル/kgで、極東や中南米市場の約1.03ドル/kgとほぼ同程度となっていると同氏は報告した。

「これら3つの市場の輸出価格は非常に近い。しかし、中南米市場はチリに近いので、輸出コストが低く、戦略的にはるかに有利である。」

同氏は、チリの輸出にとっての中南米市場の重要性を強調した。「中南米向けの輸出は昨シーズン5%増加した。これは主にチリのリンゴの主要市場であるブラジルのおかげであり、コロンビアとエクアドルがそれに続いた。」

同氏はさらに、品種についてはチリではガラ、レッドデリシャス、ふじの各品種が減少していると説明した。ピンクレディーは安定しており、アンブロシア、ハニークリスプ、エンヴィは増加した。

「米国への全輸出量の25%はハニークリスプで、今年は厳しい年であるにもかかわらず、良い価格で推移した。中国向け輸出量の28%は非常に甘いアンブロシア品種である。」

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)